

若手研究者コラムリレー

Maja SORI DOVAL (マーヤ・ソリドーワル)

プロフィール

津田塾大学国際関係学科専任講師
日本体育学会の専門領域: スポーツ人類学
ドイツ出身

2006年、ドイツでハインリッヒ・ハイネ・大学法文学科研究科修了。
2008年、国際武道大学大学院スポーツ科学研究科修了。
2011年、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程終了、
2013年、博士(スポーツ科学)取得。
明治大学情報コミュニケーション学部研究推進員や上智大学文学部保健体育研究室常勤嘱託講師を経て、2015年より津田塾大学国際関係学科専任講師として勤める。健康余暇科学科目担当。
E-mail: krokodil@tsuda.ac.jp



柔道の形競技の様子

わたしの研究

国際化の観点から見た 柔道文化論・指導論

私はヨーロッパを中心に柔道の国際化の歴史と現状を研究していますが、その中で特に指導法に関心があります。例えば、科学研究費助成事業「ドイツにおける柔道教育の展開とその現状」(若手研究B、2014～2019年)として柔道の教育思想の捉え方及び柔道指導法に焦点をあてながら、ドイツ再統一以降のドイツにおける7～14才の青少年を対象とする柔道教育の展開とその現状を考察してきました。

現在は対象者別の指導法を研究していますが、柔道教室で少年柔道にも関わり、研究成果を現場で活かせるように尽くしています。また、選手として柔道の形競技に出場することをきっかけに、競技化による形の技術的な変容にも関心があります。さらに、色々な国の柔道事情を現場で考察し、ドイツと日本以外に、ブータン、ラオスとカンボジアで研究と指導を行ったことがあります。



ブータンでの現場指導

わたしの渾身の論文・書籍・記事

ソリドーワル、マーヤ。柔術と柔道の国際化を考える: ドイツを事例に。寒川恒夫研究室編集。スポーツ人類の世界: 早稲田の窓から。243-258, 2019.

必読

(なんでも帳)

ドイツから日本に渡ってから14年近くが経ちました。武道論を研究者としてテーマとすると同時に、修行者として柔道の稽古を続ける中で気づいたのは、西欧の合理的に説明して理解させるアプローチと、体で覚えさせるという日本の指導法に見られる文化的な差です。技術を真似て反復しながら身に付けるという日本本来の稽古法にも独特の価値があると思います。

しかし、運動文化やスポーツを他人に教える指導者としても研究成果を発表する研究者や教育にかかわる大学教員としても、他人に物事を伝えられるというコミュニケーション能力は不可欠です。また、グローバル化が進む日本の現代社会において多文化理解も徐々に重要になってきます。特にオリンピックイヤーの本年において、国際交流の機会が増えるでしょう。若い世代の研究者の皆様には、是非シンポジウムやフィールドワーク等で海外に行く数多くの機会を作って、色々な方々と出会って自分の視野を広げて欲しいです。

○次回のコラムリレーは十文字学園女子大学の「若葉京良」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！
→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)

